

HubSpot x Jasper

生成AIを活用した コンテンツ制作の拡大





Parse.lyが公開した2022年版**コンテンツの重要性レポート**によると、マーケティング担当者の10人中8人が、2023年は2022年よりも多くのコンテンツを作成する予定だと回答しています。これは驚異的な数字にも思えますが、コンテンツクリエイターにとっては意外ではなく、むしろ当然の結果と言えます。

コンテンツの需要は年々高まり、種類も多様化していますが、長い間その制作プロセス自体に革新的な変化は起こっていませんでした。「動画やポッドキャストへの投資を強化したい」「LinkedInでソートリーダーシップの長文コンテンツが流行っているので、自社でも制作したい」など、社内で持ち上がる新しいチャレンジに挑むのはコンテンツチームやクリエイターです。良質なコンテンツを短時間で作成することに長けているとはいえ、ゆっくり一息つく間もなく次から次へとアセットを作り出さなくてはならないことが大きな負担となっています。これまで多岐にわたる新しいコンテンツ形式が登場してきましたが、マーケティング活動全体にとっては有益でも、クリエイターのバーンアウト（燃え尽き症候群）を防止したり、アイデア出しを効率化したりできるようなものではありませんでした。

しかし今、その課題を解決する新たな業務効率化ツールが登場しています。それが生成AIです。

“

コンテンツチームが日々の制作業務で大きな負担を抱えている背景もあり、企業ではAIの導入が進んでいます。

企業で生成AIを導入すると、コンテンツ制作にかかる時間を短縮できるので、コンテンツチームやクリエイターが十分な時間をかけて斬新なアイデアを生み出せるようになります。このeBookでは、AIを活用してコンテンツ制作業務を効率化し、コンテンツチームのワークフローを円滑化する方法をご紹介します。

目次

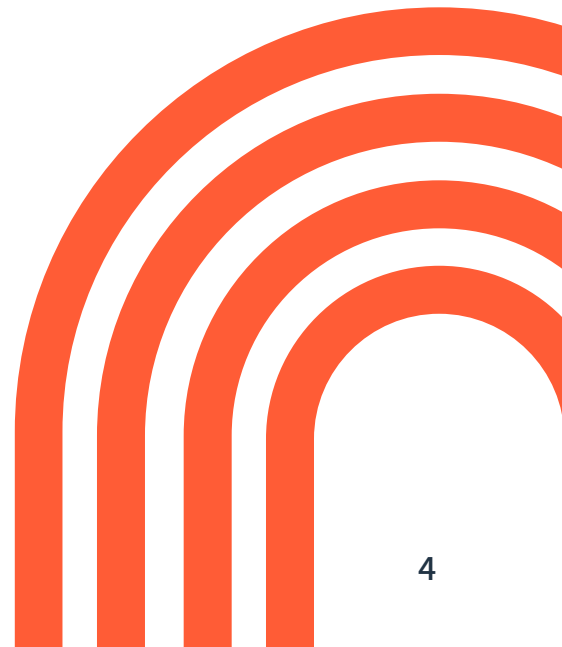
生成AIとは？	4ページ
生成AIの利用	5ページ
プロンプトとは？	6ページ
マーケティング戦略とコンテンツ戦略への活用	8ページ
生成AIの限界	12ページ
注意点：AIに潜むバイアス	13ページ
AIコンテンツに対するGoogle の評価	14ページ
生成AIの盗用リスク	15ページ
チーム全体へのAI導入	16ページ
まとめ：新時代の幕開け	17ページ

生成AIとは？

生成AI（ジェネレーティブAI）は、人間が入力した情報を基に、まったく新しい画像、文章、動画、オーディオなどを作成できる人工知能の一種です。ユーザーがプロンプト（詳しくは後述）を入力すると、それに沿った出力が行われます。生成AIは、自然言語処理モデルを使って既存のコンテンツから学習します。言語モデルからパターンを学び、そのパターンを使って、ユーザーが入力したアイデアを完成させたり、組み立て直したりします。これまで以上に素早く簡単にアイデアを形にできるため、生成AIは生産性と創造性を高める革新的なテクノロジーとなる可能性を秘めています。

仕組みを簡単に説明します。大規模言語モデル（LLM）は、一連のテキストが入力されると、最も可能性が高い次の単語を予測します。このようなモデルでは、インターネット上の約10～20%もの情報を使って学習することで、さまざまな言語の多岐にわたるトピックに関する基本的な文脈を構築しています。こうした大量のコンテンツに触れることで、人間の自然な話し方や書き方、絵の描き方を学びます。あとはベースとして学習したこと、入力されたプロンプトや文脈を加えていきます。AIモデルに入力する背景や状況が増えれば、出力の質も高まります。

生成AIで使用されるのは、自然言語処理（NLP）と人工ニューラルネットワーク（ANN）という、主に2つのモデルです。NLPモデルでは、ルールに基づいて既存のテキストから学習します。一方のANNモデルでは、データを使って要素間の新しい関係性を作成します。

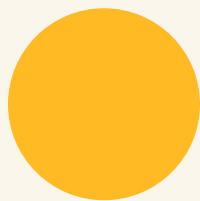


生成AIの利用

生成AIは、大規模言語モデルやJasperなどのAIアプリケーションから直接利用することができます。AIアプリケーションは、特定の用途を想定して、複数のAIモデルから情報を引き出します。状況に応じて適切なモデルを選定し、組み合わせることで、ユーザーのニーズを的確に満たすことができます。

今後数年間で、さまざまな強みや専門分野を持つ幅広い種類のAIモデルが登場する見込みです。それに伴いアプリケーション層も進化し、機能が大幅に向上するでしょう。また、データを活用してモデルに微調整が加えられ、出力の効率も高まります。

以上が生成AIを支えるテクノロジーの仕組みです。複雑そうですが、実際はかなり直観的に利用できます。クリエイターは、プロンプトを入力するだけで、アイデアを形にする作業を手伝ってもらえます。



プロンプトとは？



プロンプトとは、ユーザーがAIに何を生成するかを指示するための入力内容のことです。生成AIへのプロンプトは自然言語、つまり私たちが日常で使う言葉で簡単に入力することができます。ただし、的確なプロンプトを作成するにはちょっとしたテクニックが必要で、これによってAIが生成する出力の質が左右されます。

以下は、生成AIツールの **Jasper** に入力したプロンプトと、生成された回答の例です。この例では、人間が入力したプロンプトを太字で、AIの出力を通常のテキストで表示しています。

オードリー・ロードについて1文で説明してください。

オードリー・ロードは影響力のある米国の作家、詩人、人権活動家であり、人種、ジェンダー、セクシャリティーの問題について強く声を上げた人物です。

データ侵害とハッキングの違いを説明してください。

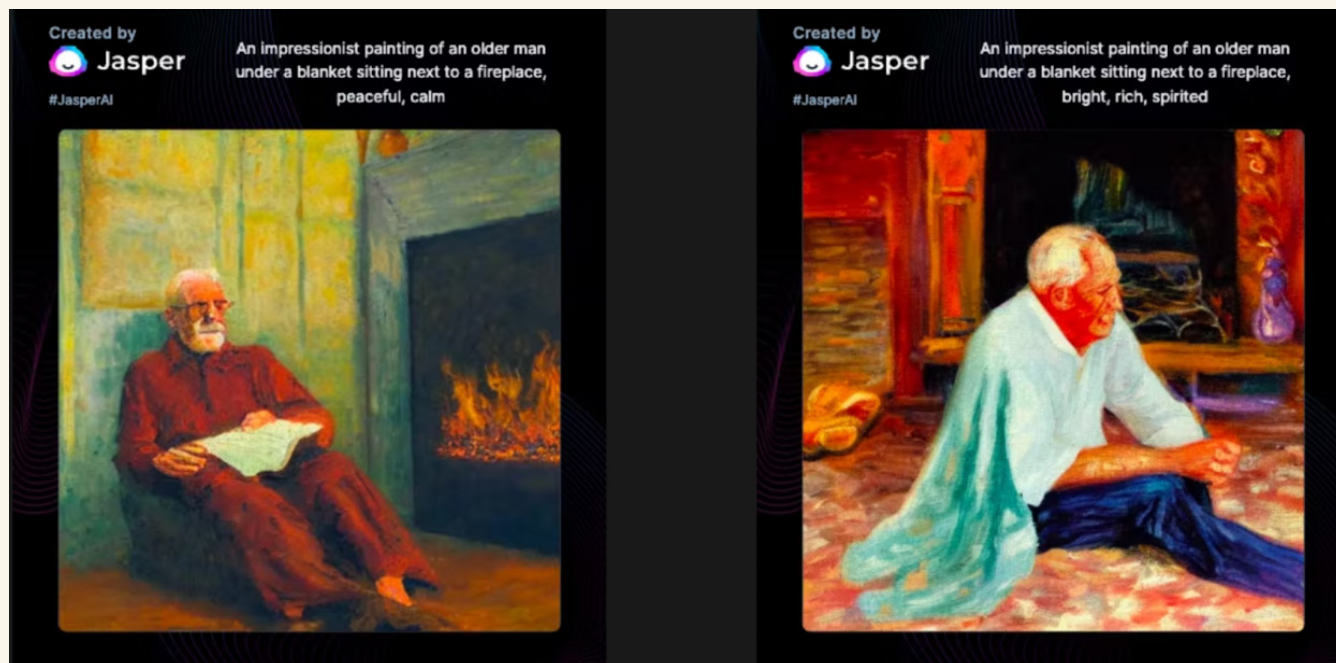
データ侵害は、機密情報やその他の保護されたデータが不正なユーザーによってアクセスされたインシデントを指します。ハッキングは、情報にアクセスする目的またはシステムの動作を混乱させる目的でシステムの脆弱性の悪用を試みる行為を指します。

コンテンツチームに、検索に最適化されたハウツーコンテンツの作成を重視させますか、それともソーシャルメディアや口コミで拡散するソートリーダーシップやエンターテインメント関連のコンテンツを重視させますか？ この文章を言い換えてください。

ハウツーコンテンツの検索エンジンでの表示順位を向上できるようにコンテンツチームを最適化しますか、それともソートリーダーシップやエンターテインメント関連のコンテンツがソーシャルメディアや口コミで拡散されることを目指しますか？

プロンプトは簡単でも構いませんが、目的を明確にして入力すると期待通りの出力が得やすくなります。

以下は、テキストから絵画を生成するツールの例です。プロンプトを少し変えるだけで、結果が大きく変わります。



上図のように、キーワードを左側の「平穏、穏やか」から右側の「明るい、豊か、活発」に変えるだけで、全く違う雰囲気の仕事になります。プロンプトを編集する際は、中心となる指示（「次に続く文を書く」「この文を言い換える」「この文章を膨らませる」など）を変えるだけでなく、説明語（「平穏な」「カラフルな」）、トーン（「気の利いた」「教育的な」「機械的な」）、模倣する人物（「画家サルバドール・ダリのスタイルで」「司会者オプラ・ウィンフリーの口調で」）などを追加するのもお勧めです。

AIの基本的な仕組みといくつかの用語をご紹介しました。次は、生成AIを活用してマーケティング戦略やコンテンツ戦略を拡大する方法について考えてみましょう。

マーケティング戦略と コンテンツ戦略への活用

生成AIは、オリジナルのマーケティングコピーから、ウェブサイト用の画像、製品説明、ブログ記事まで、幅広いコンテンツの生成に活用できます。さらに、既存のコンテンツを作り変えて1つのキャンペーンを構成したり、アイデアを別の言語に翻訳したりすることも可能です。マーケティング担当者の業務補助として有効なAI活用の代表例をいくつかご紹介します。



アイデア出し

新しいアイデアがすぐに必要な場合は、生成AIを利用すると便利です。生成AIは何の指示もなしに革新的なアイデアを出してくれるわけではありませんが、アイデアを形にして表現するという最初のハードルを越えるのに役立ちます。

例えば、保険会社の社員がブログ記事のテーマ出しにAIを活用する場合を考えてみましょう。以下のようなプロンプト（太字）を入力したところ、参考になるAIの回答（通常のテキスト）が得られました。

短期の所得補償保険に関するブログ記事のアイデアを出してください。

- 短期の所得補償保険を理解する
- 短期の所得補償保険について知っておくべきこと
- 短期の所得補償保険のメリットを最大限に活用する方法
- 不測の事態に備えるには：短期の所得補償保険で暮らしを守る
- 短期の所得補償保険の契約の種類を理解する

気に入るものが1つしかなかったとしても、AIのおかげで好スタートを切ることができます。



複雑なアイデアや長文の簡略化

文章を大量に書くことは得意でも、簡潔に書くのが難しい場合もあります。作成した文章を生成AIで簡潔にまとめ、対象読者に合わせたり読みやすくしたりできます。以下の例をご覧ください。

上記の段落を簡単にまとめてください。

AIを使うと、長い文章を短くしたり、複雑なトピックを分かりやすくしたりできます。

文章を緻密に練り上げるタイプの書き手でも、AIを使えば、遠回しな表現を減らしやすくなります。



ビジュアル素材の作成

写真素材サイトで条件に合う素材を探し出すのは、至難の業です。貴重な時間を使ってブログ記事やeBookにぴったりの画像を探しても、基準を満たさないものか、利用料が高すぎるものしか見つかりません。最終的に有料画像をいくつか購入したところで、同じ写真が他のウェブサイトでも使われていて、がっかりすることもあるでしょう。専任のデザインチームを設けていない場合や、今までになかった新しいビジュアルを求めている場合は、生成AIが有力な選択肢になります。

生成AIに求めている画像を言葉で説明し、スタイルや形式などを変えて微調整すれば、目的に合った素材が得やすくなります。こうして得られる素材はどれもオリジナルなので、利用権を購入する必要もありません。



調査内容のまとめ

AIツールが自力で調査研究を行うことはないにしても、生成AIを使えば、顧客アンケートや定性調査などの何ページにもわたる調査研究をまとめて、要点を導き出したり要約を作成したりできます。また、大量のデータが手元にある場合は、生成AIを使ってデータを解釈し、見落としていたパターンを見つけることもできます。ただし、出力結果を確認する際には、論理的に考えることを意識して、正確かどうか、そして全ての要点が網羅されているかどうかを確認するようにしましょう。



スランプからの脱出

執筆活動をしていると、最初は好調だったにもかかわらず、途中で勢いを失ったり、話題を変えるときに行き詰まったりすることがよくあります。そんなときに生成AIを使えば、スランプを抜け出すことができるかもしれません。例えばまさに今、この段落には次に進むためのつなぎの文章が必要です。早速AIに助けてもらいましょう。

上記の文章から次につなげる文章を1つ考えてください。

これでスランプを脱出したので、eBookを最後まで書き終えたいと思います。

良いですね。



マルチチャネルへの展開

“

優れたチャネルもいずれは飽和してしまうため、マーケティングに特定のチャネルだけを利用するのはリスクが高すぎます。そのチャネルがなくなったときや、自社のビジネスに合わなくなったときは、全てが台無しになってしまいます。アルゴリズムをコントロールすることはできませんし、コストの予測が難しい場合もあります。だからこそ、オムニチャネルに注力することが重要なのです。結局は、主要なマーケティングチャネルを全て試して活用することが求められます。

Neil Patel氏

Mixpanel共同創業者

発信するチャネルが増えると、コンテンツがオーディエンスに届きやすくなるものの、その分負担も増えるため、忙しいマーケティング担当者にとっては嬉しいことばかりではありません。生成AIを利用すれば、まず1つのコンテンツを作成してから、それを異なるフォーマットや長さには調整していくことで、マルチチャネルのキャンペーンを丸ごと構築できます。例えば、ブログ記事をさらに幅広いトピックを扱ったeBookに書き換えて、長文のコンテンツを基にソーシャルメディアへの投稿をいくつか作成することができます。



広告とランディングページのバリエーションテスト

生成AIは、自分で何十ものバージョンをデザインすることなく、広告やランディングページのバリエーションを作成するのに役立ちます。ソースとなるページや広告を1つ作成したら、AIに3つ、9つ、さらに多くのバリエーションを作成するように依頼してみましょう。



リードナーチャリングのシーケンスと営業アプローチ

ブログ記事と同様に、Eメールシーケンス（自動配信する一連のEメール）の作成も時間がかかる作業です。生成AIを使えば、リードナーチャリング（見込み客の購買意欲醸成）のシーケンス作成を迅速化したり、メッセージのトーンを調整したり、営業Eメールにパーソナライズを施したりすることができます。リードや顧客に関するデータを入力すれば、それぞれのニーズ、関心、以前のやりとりを基にカスタマイズされたコンテンツが生成されます。AIツールがリードについて自力で調査させることはありできませんが、調査結果を基に企業が必要としているような一貫したインサイトを引き出すことができます。

言語の壁を乗り越える

素晴らしいアイデアを持ちながら、それを異なる言語でうまく伝えられないというのは、世界中の多くのクリエイターが経験する大きな課題です。クリエイター、起業家、そして企業などは、生成AIを使ってテキストを翻訳し、対象となる言語で自然な言い回しになるように調整することで、別言語でコンテンツを作成できます。ローカリゼーションや、世界のさまざまなコミュニティにコンテンツを適応させる作業を完全に置き換えるものではありませんが、AIによってそのプロセスを加速できることは間違いありません。

ここまでに紹介した機能はどれも登場してまだ日が浅いですが、急速な進化を遂げています。そして今後はさらに多くのマーケティング担当者がAIを活用して、いっそう高品質なコンテンツをこれまで以上に素早く作成するようになるでしょう。

生成AIの限界

生成AIはまだ初期段階にあり、あらゆる作業に対応できるものではないため、利用するには考慮しなければならないいくつかの限界があります。特に注意したいのは、AIシステムの精度は、学習時に使用されたデータとプロンプトで入力されたデータの質に左右されるということです。そのため、生成されたコンテンツによってはバイアスや間違いが反映されている場合があります。だからこそ、人間の介入が必要不可欠であり、ライターやエディターの仕事をAIが奪うことは決して起こらないと言えるのです。

AIは多岐にわたる機能を果たしますが、次に挙げる領域には（少なくとも現時点ではまだ）対応できません。

● ゼロから調査：

AIは自力で調査や分析を行うことができません。一般に、AIに生成されたコンテンツはごく表面的なレベルに留まるため、内容を補強したり調査内容を反映したりして、中身を掘り下げる必要があります。

● 事実確認：

AIにテイラー・スウィフトの最新アルバムを尋ねたのに、2つ前のアルバムの名前が返ってくる場合があります。AIが生成したコンテンツについては、事実かどうかを人間が確認する必要があります。



● 実体験の反映：

AIは人間のように振る舞いますが、実体験に触れることはできません。コンテンツに実体験や見解を反映するのは人間の仕事なのです。

● 品質の確保：

AIは筋の通った言葉を出力するだけなので、テキストの生成時に読み応えや品質は考慮されていません。だからこそ、AIの出力したコンテンツを調整する人間の存在が不可欠です。AI活用によって執筆時間が短縮される分、ライターはアイデア出しや品質管理、編集作業に時間を使うとよいでしょう。

注意点： AIに潜むバイアス

AIは、プロンプトや自然言語処理のモデルを使用して動作します。当たり前のことと思われるかもしれませんが、テクノロジーの1つである生成AIには良心や倫理観はなく、歴史的な文脈も踏まえていない点を忘れてはいけません。つまり、AIが関わったコンテンツにはバイアスが入り込んでいる可能性があります。

バイアスを防ぐため、多くの言語モデルやアプリケーションにはテキストと画像生成の両方でコンテンツフィルターが組み込まれており、特定の用語の使用が制限されています。そうしたフィルターによって極端な禁止用語はほとんど除外できるはずですが、完全に見落としをなくすことはできません。そこで人間のクリエイターやエディターが介入し、AIが関わったコンテンツが社会的包摂に配慮し、しっかりと考えられた内容になっているか確認することが不可欠です。

バイアスは、悪意のあるプロンプトだけでなく、AIのトレーニングデータが限られていることによって生じる場合もあります。[AI4ALL](#)というNGO団体などでは、AIのトレーニングに、世界の多様性を反映した広範囲なデータが使われるように取り組んでいます。

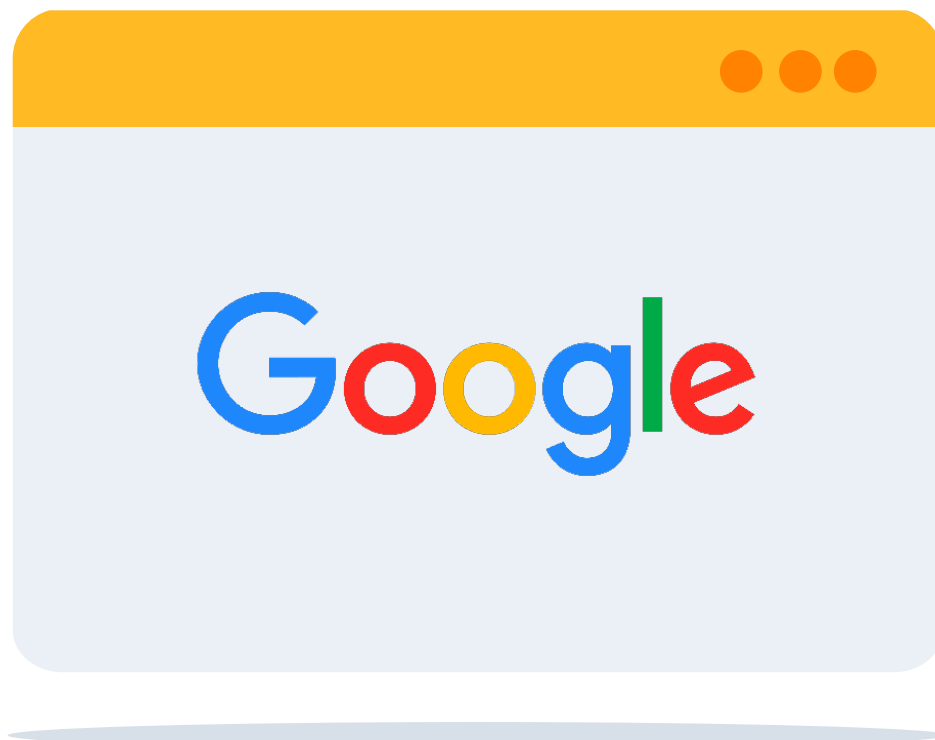
一般には、AIを使用することによって特定のタスクを自動化し、コンテンツを素早く効率的に作成できるようになります。しかし、人間の創造性、調査、判断に取って代わるものと考えてはいけません。だからこそ、AIと人間のどちらを選ぶかという議論には意味がないのです。

AIは人間の創造性を強化してくれるツールにすぎません。何かを作り出すのはあくまでも人間の役目であるという事実を忘れないようにしましょう。

AIのコンテンツに対するGoogleの評価

Google は2022年に、コンテンツを評価するアルゴリズムについて有用な更新を行い、自動作成機能が過度に使用されているコンテンツの評価を下げました。このとき、コンテンツ作成にAIを利用すると検索順位が下がるのではないかと懸念が広がりました。しかし、詳細の確認や調査の末、AIを使うこと自体に対するペナルティーはなく、使い方に問題がある場合にのみ評価が下がるということが明らかになりました。Google がペナルティーを科すのは品質の低いコンテンツであり、作成者が誰なのか、または何なのかは関係ありません。AIが作成したコンテンツが低品質で読者の役に立たなければ、ペナルティーが科せられます。ただし、それはこの先進的なテクノロジーが生まれるずっと前から同じことで、人間が作成したコンテンツであっても品質が低ければ評価は下がります。

AIが作成するコンテンツに固有の特徴があるわけではありませんが、文章に深みがないことは誰にでも分かります。そのため、AIを活用してコンテンツを作成する場合は、任せっきりにするのはやめましょう。AIコンテンツプラットフォームの活用によって空いた時間を使い、調査や、オリジナリティーのあるアイデアの検討、内容に深みを持たせる編集作業に打ち込めば、さらに高品質のコンテンツが出来上がるはずです。



生成AIの盗用リスク

生成AIの利用がデータの盗用と見なされるリスクは高くありません。その理由を知るためには、まずその仕組みを把握しておく必要があります。このテクノロジーは、トレーニングにインターネット上の大量のデータを使用します。ただし、読み取ったデータやフレーズをそのまま出力するのではなく、学習したことを基に、ユーザーが期待しているものを予測して生成するのです。

例えばJasperプラットフォームには、盗用リスクを低減する安全機能が搭載されています。

“

インターネットにある既存のコンテンツを盗用してしまう心配も、他のJasperユーザーと同じ出力が表示される心配もありません。他のユーザーとまったく同じプロンプトを入力した場合でも（まず起こり得ませんが）、Jasperが同じ出力を返すことはほぼありません。さらに、Jasperのツールは盗用チェッカーを搭載しているため、クリエイターは安心して利用できます。このツールにより、Jasperが生成した数十億の単語のうち、99.98%に盗用が含まれないことが実証されています。

盗用した内容が記事に入り込むのは、ライターがインターネットから元の素材をそのまま持ち込んで、変更または削除するのを忘れてしまう人的ミスが主な原因と言えます。

チーム全体へのAI導入

マーケティングチームでAIを活用することで、チームの生産性向上やコンテンツの市場投入までの時間短縮に、直ちに大きな効果が現れます。テクノロジー自体は運用が難しいわけではありませんが、最適な用途や、導入時のクリエイターやエディターの役割を理解できるように、時間をかけてトレーニングを実施することをお勧めします。



業務への組み込み

生成AIの最大のメリットは、制作にかかる時間を削減してくれることです。AIを搭載した[ブラウザーの拡張機能](#)やコンテンツプラットフォームを利用して、生成AIを作業現場に直接取り入れましょう。



トレーニングの実施

先ほど説明した通とおり、AIは驚くほど簡単に利用できますが、有効に活用するためには訓練と経験を積み、利用目的を明確にする必要があります。本ガイドを使ってトレーニングを実施する以外に、無料の[ビジネス向けAIトレーニングプログラム](#)に参加してもらうのも良いでしょう。何らかの研修を実施すると、チーム全員がAIを意識的かつ効率的に活用しやすくなります。デジタル写真技術が世に出たときと同じように、生成AIを効率的に活用して成果につなげるには、時間をかけてクリエイティブなスキルを習得する必要があります。



成果の記録

社内でAIがどのように稼働しているのか、把握しておくことをお勧めします。例えば、コンテンツ作成1件当たり節約できた平均の作業時間、AIを活用して作成したコンテンツのパフォーマンス、ウェブサイトの検索順位、広告の各バリエーションのパフォーマンスなどです。まったく新しい分野においては、誰もが先駆者になれる可能性を持っています。いち早く理解を深め、潮目の変化に適応することで、競争力を高めることができます。

まとめ： 新時代の幕開け

生成AIによって、コンテンツクリエイターはこれまでにない革新的な方法でアイデアを形にして新しい作品を生み出せるようになるでしょう。歴史を振り返ってみても、アイデアの創出や表現を阻んでいる障壁が取り除かれた後は、生産性が爆発的に高まります。

このテクノロジーについては、学ぶべきことと改善すべきことがまだまだ多く残っています。AI活用に関する基準の整備も必要です。それでも生成AIによって、コンテンツチームでの作業の在り方やビジネスが成長していく形は確かに大きく変わろうとしています。

生成AIを試してみませんか？

Jasperは、マーケティングチームと営業チームが文章作成の行き詰まりを克服し、オリジナルの画像を作成して、コンテンツを異なるフォーマット、トーン、言語に変換することを支援する人工知能プラットフォームです。

Jasperを無料で試してみる

パワフルなオールインワンのCRMと営業支援ソフトウェア

マーケティングから営業、コンテンツ管理、カスタマーサービスに至るまで、HubSpotのCRMプラットフォームはさまざまな業務に欠かせないツールや連携機能を備えています。CRMは無料でお試しいただけます。

HubSpotのCRMを試してみる